

一貫作業の実行結果について

付知営林署 山 口 太

1. 目 的

生産事業の作業仕組の中に伐採前地拵と、全木集材を一貫して実行することにより、総合的コストの低減を目的に取組んだ結果を報告する。

2. 内 容

(1) 具体的に取組んだ改善点

ア 従来伐倒時に支障となる灌木類は、伐倒に支障のない程度に刈払い、造林事業での地拵時に再び刈払った株を手直しする状況であった。これを伐倒時に低く刈払うことによって手直しが不要となった。

イ 全木集材の実行によって、盤台付近で末木枝条を焼却し、林地に残存の末木枝条類は併行地拵を実行したため、伐採後の整理地拵が不要になった。

(2) 実行結果

(生産事業)

ア 枝払い作業が不要になり先山作業の就労日数が減少し、安全な作業ができた。

イ 枝払い作業が不要になり、リモコンチェーンソーの使用が主体で実行できた。

ウ 枝払い作業は、集材と造材の中継工程として、安全な場所で実行でき、末木枝条類は焼却した。

エ 生産性も前年度より伐倒部分で向上が図れた。

(造林事業)

ア 枝条が減少したため植付面積が多くなり、労力の減少が図れた。

イ 灌木類の株直しがないたため、刃物の使用が少なくて安全に実行できた。

ウ 苗木が多く入り、ムラなく植えることが可能である。(別表のとおり)

(3) 問題点

ア 枝条処理、枝払い盤台作設に要する人員が掛り増しとなる。

イ 末木枝条類の焼却場所が近かったので、煙や熱になやまされた。

ウ 残存末木枝条及び地被物が、集材木によって筋に集められ、一部林地が裸地となり地力の低下が考えられる。

エ 河川に近い焼却場のため、焼却物の流出が心配であった。

(4) 今後の改善方向

ア 画一的な作業を改め、現地の実態に合った作業を実行する。

イ 事業間の連携作業をさらに推進する。

ウ 伐採から地拵、植付けまで一貫して実行できるよう検討する。

3. おわりに

全署的な立場でセクトにとらわれることなく、効率的な連携作業を目標に、今回の成果をさらに前進させ、問題点の解消につとめ、経営改善計画達成のための一助としたい。

越原 国有林地拵、実績表

経常地拵（全幹集材箇所）

枝条程度	実行年度	林小班	面積	実行人工	功 程
枝条普通	54	177い	0.86	12.0人	14.0人
〃	54	185い	2.11	29.0人	13.7人
計			2.97	41.0人	13.8人
枝条少箇所	55	177い	1.30	13.0人	10.0人
〃	55	185い	0.81	8.5人	10.5人
計			2.11	21.5人	10.2人
合 計			5.08	62.5人	12.3人

併行地拵（全木集材箇所）

実行年度	林小班	面積	実行人工	功 程
55	177い	2.59	18.0人	6.9人
56	177い	2.22	18.0人	8.1人
計		4.81	36.0人	7.5人

全幹、全木集造材対比表

54年度全幹集造材実行内訳表				55年度全木集造材実行内訳表			
作業工程	実行数量	実行人工	功 程	作業工程	実行数量	実行人工	功 程
全 伐 (チ シ)	110.218	18.8人	5.9	全伐(リ)	1,115.272	102.0人	10.9
全 伐 (リ シ)	495.378	90.0	5.5	全伐(チ)	160.872	9.0	17.9
小 計	605.596	108.8	5.6	小 計	1,276.144	111.0	11.5
全幹一段	884.607	114.0	7.8	全木一段	1,032.807	93.4	11.1
全 造 (移 玉)	291.880	53.0	5.5	全 造 (チ、移玉)	362.789	82.0	4.4
全 造 (シ チ)	636.117	61.5	10.3	全 造 (シ、移玉)	670.018	170.0	3.9
小 計	927.997	228.5	4.1	小 計	1,032.807	345.4	3.0
計	927.997	337.3	2.8	計	1,032.807	456.4	2.3